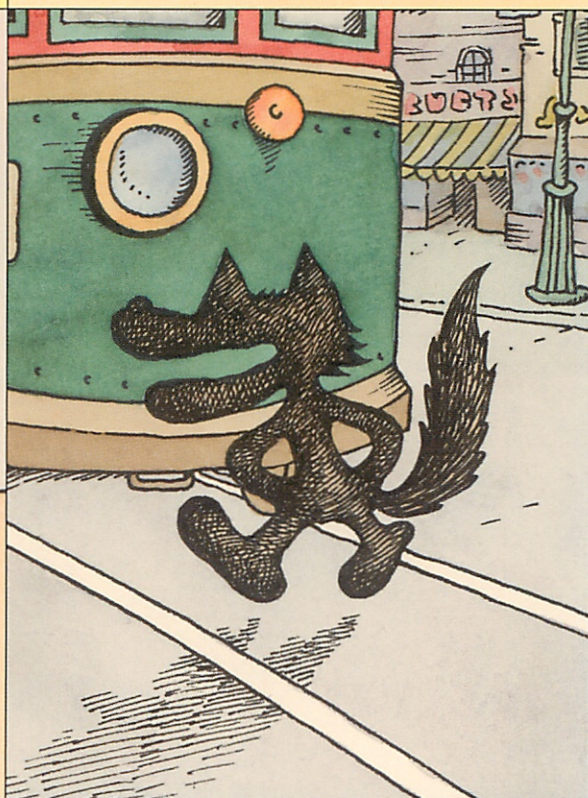
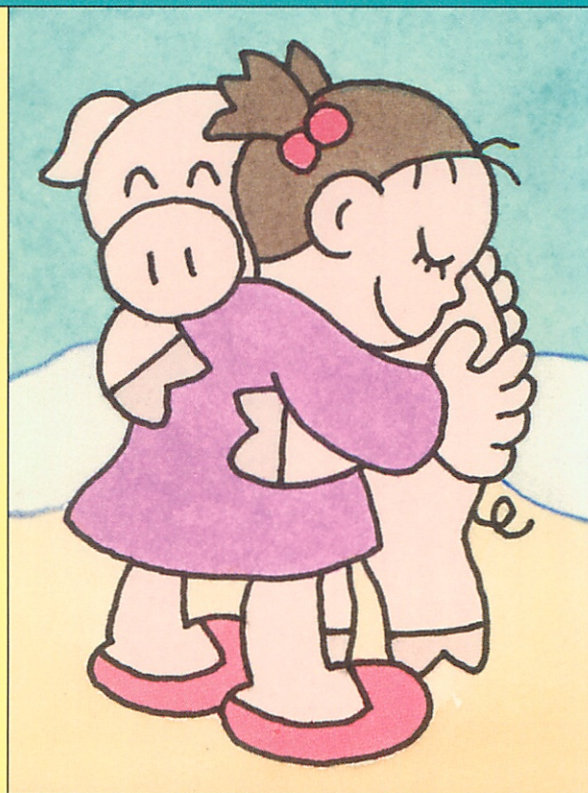


佐々木マキ 見本帖



右上より
「マキ」2011
「マキ」おひさま1973
「マキ」の只々1991
©佐々木マキ

“The Mark of Maki Sasaki”

2013年4月6日(土)~6月23日(日)

前期：4月6日(土)~5月15日(水) / 後期：5月18日(土)~6月23日(日) ※前後期で展示作品が異なります。

●開館時間：午前10時~午後7時30分 ●入館料：100円 (小学生以下・65歳以上・障がい者の方は無料)

休館日：4月24日(水)、5月16日(木)、5月17日(金)、5月29日(水)

主催：武蔵野市立吉祥寺美術館 協力：こどもの本 WAVE、絵本館、太田出版、金正陶器、教育画劇、金の星社、講談社、小学館、株式会社 PHP 研究所、福音館書店、フレーベル館 企画協力：メディアリンクス・ジャパン



武蔵野市立吉祥寺美術館

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町1-8-16 FFビル(コピス吉祥寺A館)7階
TEL: 0422-22-0385 http://www.musashino-culture.or.jp/a_museum/

心はもちろん大切ですが

わたくしどもの仕事では

見かけはもつと重要です

というのも

見かけに心が出るからです

— 亞里馬々商会主人謹白



学生時代からマンガ家として注目され、雑誌「ガロ」や「朝日ジャーナル」などで独創的なマンガ作品を発表していた佐々木マキは、1973年に絵本『やっばりおおかみ』で絵本作家として衝撃的なデビューを遂げました。その後『ぼくがとぶ』『ムッシュ・ムニエルをこしょうかいします』『ねむいねむいねずみ』など数多くの絵本を発表し絵本作家として活躍する一方で、村上春樹らの小説の挿絵を描くなど、幅広い年代に親しまれてきました。2011年には初期のマンガを収録した作品集『うみべのまち 佐々木マキのマンガ 1967・81』が刊行され、前衛的・実験的と評された当時のマンガ作品に再び注目が集まっています。

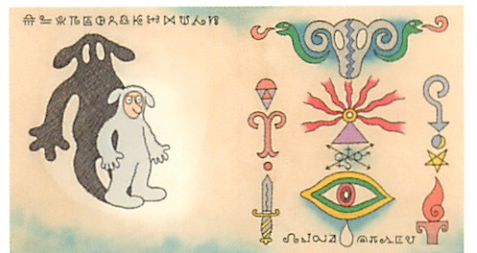
本展は「佐々木マキ見本帖」と題して、約45年間の多岐にわたる創作活動を振り返る初めての展覧会で、マンガや絵本の原画のほか、挿絵や装丁画、版画、写真、陶製のフィギュアなど貴重な作品約200点を前後期にわけて展示します。中でもマンガ「ピクルス街異聞」と絵本『やっばりおおかみ』の原画は前期に、マンガ「うみべのまち」の原画は後期にそれぞれ全点が展示されます。かつて「ガロ」を愛読していた世代から現在絵本に親しんでいる小さな子どもたちまで、佐々木マキのシニールでクールな不思議世界を多くの方々にお楽しみいただける絶好の機会となることでしょう。

※展示作品数は変更する場合があります。

イラストレーション



右上 版画 オオカミ 1971
左上 版画 ビンの中 1971
中 「版画 灯台(手彩色)」1972
下 村上春樹「羊男のクリスマス」1985



絵本



上「やっばりおおかみ」1973
中「また ぶたのたね」2005
下「いとしのロベラ」1991



マンガ



上 「怪盗スバンコール」1994
右 「ピクルス街異聞」1971
左 「うみべのまち」1968



“The Mark of Maki Sasaki”

関連イベント

- ① 座談会「佐々木マキの絵本」
5月3日(金祝) 午後2時~3時30分
各社担当編集者の有志が佐々木マキさんの絵本について語ります。
- ② 講演会「佐々木マキのマンガ」
6月8日(土) 午後2時~3時30分
講師：夏目房之介氏(マンガコラムニスト)
①②ともに会場：吉祥寺美術館音楽室
定員：90名(要予約)
聴講無料ですが美術館入館券が必要です。
予約方法：4月6日(土)より電話、または美術館窓口で直接申し込み。電話0422-22-0385。
定員になり次第締切。

- ③ ギャラリートーク
4月6日(土) 午後2時~3時
5月19日(日) 午後2時~3時
「佐々木マキ見本帖展」のプロデューサーであるメディアリンクス・ジャパンの穂積 保氏(こどもの本WAVE代表)が本展の展示内容や佐々木マキさんの魅力について語ります。
会場：企画展示室
予約不要。参加無料ですが美術館入館券が必要です。
- ◎ 佐々木マキさんサイン会
5月18日(土) 午後2時~
午後1時からミュージアムショップで関連書籍お買上の方先着80名にサイン会整理券をお配りします。



JR中央線、京王井の頭線「吉祥寺駅」中央口下車徒歩約3分
美術館専用の駐車場はありません

武蔵野市立吉祥寺美術館